

日照不足・低温に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

平成29年8月14日11時10分、「日照不足と低温に関する福島県気象情報 第2号（福島地方気象台）」が発表されました。

日照不足と低温に関する福島県気象情報 第2号

平成29年8月14日11時10分 福島地方気象台発表

(見出し)

福島県では、中通りや浜通りを中心に、8月1日頃から日照時間が少なく、気温の低い状態が続いています。この状態は、今後一週間程度は続く見込みです。農作物の管理等に十分注意してください。

(本文)

福島県では、中通りや浜通りを中心に、8月1日頃から、湿った東よりの風の影響で、日照時間の少ない状態が続いています。8月1日から13日までの日照時間は、平年の50%を下回っている所が多くなっています。また、最高気温は、中通りや浜通りの北部・中部を中心に平年より3℃以上低くなっている所があります。

この状態は、今後一週間程度は続く見込みです。

農作物の管理等に十分注意してください。

最高気温（8月1日から8月13日までの平均値）と日照時間（8月1日から13日までの合計値）（速報値）

(気象官署及び特別地域気象観測所)

	最高気温（度）	平年値（度）	平年差（度）
若松	31.2	31.1	+0.1
福島	28.3	31.0	-2.7
白河	28.0	28.9	-0.9
小名浜	27.1	27.5	-0.4
	日照時間（h）	平年値（h）	平年比（%）
若松	84.0	87.2	96
福島	21.7	67.8	32
白河	38.8	64.2	60
小名浜	50.5	81.7	62

今後の気象情報、注意報等に留意してください。

以下の技術対策を参考に、農作物の管理に十分注意しましょう。

【共通事項】

- (1) 日照不足や曇雨天が続くことにより、農作物に病害が発生しやすくなることから、今後の天候の推移に十分に注意するとともに、ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努めましょう。

- (2) 農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、散布にあたっては飛散防止対策を講じてください。

1 水 稲

- (1) 出穂後、少なくとも30日間は落水せず間断かん水とし、根の活力を維持することで登熟の向上を図りましょう。
- (2) 刈り取りの適期は、籾の黄化率が90%程度、籾水分25%以下になった頃からです。ほ場をよく観察し、適期刈り取りに努めましょう。
なお、本年は登熟のバラツキが大きいと予想されます。収穫・乾燥・調製は丁寧にいきましょう。
- (3) 斑点米カメムシ類の発生が例年を大きく上回っています。薬剤防除を徹底しましょう。

2 大豆・そば

- (1) 湿害を防ぎ根の活力を維持するため、降雨によりほ場内に停滞水が発生しないよう明きょ等による排水対策を徹底しましょう。

3 野 菜

- (1) ほ場の管理
- ア 日照が不足すると生育が軟弱徒長気味となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、追肥は1回当たりの窒素分量を少なくし、窒素過多にならないようにしましょう。
- イ 降雨が続く場合は、停滞水が発生しないよう明きょを掘るなどして排水対策を徹底しましょう。
- ウ 黄化葉や側枝の新葉を覆っている葉、病葉は随時摘除するとともに、着果負担が大きい果菜類では草勢に応じて摘果しましょう。
- エ ハウスでは換気を良好にし、適正な温湿度管理に努めるとともに、加温機がある施設では、曇雨天時に送風運転を行い、葉の濡れを防ぎましょう。

(2) 主な品目の技術対策

- ア キュウリ
べと病、つる枯病、炭そ病等の発生が多くなるので防除に努めましょう。また、不良果を摘果し、草勢維持を図りましょう。
- イ トマト
追肥は、窒素過多にならないように施用し、草勢維持に努めましょう。また、灰色かび病や葉かび病が発生しやすいので、ハウス内の換気を図るとともに、薬剤散布を行いましょう。標高が高い等冷気の入りやすいところでは、疫病の発生に注意しましょう。
- ウ インゲン
排水対策を徹底するとともに、炭そ病等の発生に注意しましょう。
- エ ピーマン
斑点病等の発生に注意しましょう。
- オ ナス
排水対策を徹底し、灰色かび病等の発生に注意しましょう。

4 果 樹

- (1) 樹冠内の日照条件改善
ももやりんごでは枝吊り、支柱立て、夏季せん定により、なしでは新梢の誘引などにより樹冠内部の日当たりを確保しましょう。
- (2) 適正な着果管理
樹勢や果実肥大の状況に応じた着果管理を行いましょう。りんごやなしの中晩生品種では修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。

(3) 果実の着色促進

ももでは収穫7～10日前を目安に反射シート等を設置して、着色促進を図りましょう。りんごの早生種では、果面の30%程度が着色した頃から摘葉を実施しましょう。

5 花き

(1) ほ場の管理

日照が不足すると茎葉の生育が軟弱徒長気味となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、積極的な施肥は避けましょう。

また、曇雨天時は遮光資材は取り除き、光の確保に努めましょう。さらに、不要な枝葉を取り除き、風通しをよくするとともに農薬の予防散布により病害発生の抑制に努めましょう。

露地花きでは、過湿等によって下葉の黄化や枯れ上がりが発生しやすいため、排水対策を行いましょう。

(2) 主な品目の技術対策

ア トルコギキョウ

ブラスチングを発生しやすいため、余分な蕾を早めに取り除きましょう。また、施設内の風通しを良くし、灰色かび病の抑制に努めましょう。

イ キク

白さび病等の発生が懸念されるため、予防散布、排水対策を行いましょう。

ウ ユリ

露地では、葉枯病が発生しやすいため、排水対策や予防散布を行いましょう。

エ リンドウ

葉枯病や褐斑病が発生しやすいため、排水対策や予防散布を行いましょう。

また、気温が低く経過すると花腐菌核病の発生が早まるため、適切な防除に努めましょう。

6 飼料作物

(1) 生育停滞、湿害及び刈遅れ等により、収穫量や品質の低下のおそれがあるため、気象及び生育状況に応じた適切な肥培管理、排水対策や収穫調整に努めましょう。

(2) また、牧草等の収穫が遅れる場合には、添加剤の使用等によりサイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>